

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3610126124		
法人名	医療法人 松岡会		
事業所名	山城第一グループホーム		
所在地	徳島市山城西1丁目182-3		
自己評価作成日	平成28年12月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成29年2月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は1ユニット6名であり狭いですが各利用者様の生活リズムに添った空間づくりを意識して職員が寄り添いながらレクリエーションや役割作業などをゆっくりとして頂いています。また近くには学校や公共施設があり行事等があれば積極的に参加しています。天気がいい日には散歩をした後スーパーに買い物に行き地域交流の場を持つようしています。医療機関を併設している事もあり体調変化がある時はDr.NSと連携し迅速に対応できる体制をとっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、同一法人の運営する医療機関と同じ建物の3階に位置している。日頃から職員は、利用者の目を見て話しかけるなど、一人ひとりの意思や希望を把握するよう努めている。全職員が理念を支援の基本と捉え、利用者の尊厳を守りつつ、その人らしい暮らしの実現に向けた支援に取り組んでいる。特に日頃の排泄や入浴支援などの際には、職員間のチームワークや相互の協力、対応方法の工夫等を行うことで、清潔の保持や自立に向けた支援に取り組んでいる。管理者と全職員で話し合い、利用者一人ひとりが外出の機会を多くもつことができるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼の前に職員全員で唱和し理念の実践に取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を掲げている。毎朝の朝礼時に、全職員で理念を唱和しており、理念を支援の原点として捉えている。職員は、業務の中で確認し合いながら実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	学生の実習受け入れや学園祭の参加等で地域の方と交流するようにしている。	利用者と職員で、散歩や買い物時に出かけ、地域の住民と挨拶を交わしたり、近隣の学校等のイベント等に参加したりしている。幼稚園児やボランティアの来訪を受け入れるなどし交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者及び職員は地域の様々な研修会に関わりながら認知症ケアの啓発に努めています。実習生の受け入れやDSの利用者との交流も積極的に行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事の様子の写真を見てもらいながら利用者状況やグループホームで取り組んでいる事項を報告して意見交換をし意見を取り入れることでサービス向上に努めている。	年6回、運営推進会議を開催している。事業所の状況を報告したり、テーマを決めて協議したりして意見を出してもらっている。出された意見や提案は職員間で検討し、運営面に反映するようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月1回ながいき課に出向き顔馴染みの関係をつくり市町村と共にサービスの質向上に取り組んでいる。	実績報告書等の提出時に市担当窓口を訪問し、その際に事業所の現状や取り組みを伝えている。困難事例などが発生したときには、電話で助言や指示を受けるなどして、協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束の内容を把握し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所では、身体拘束の廃止に関するマニュアルを整備している。職員が身体拘束の弊害について正しく理解することができるよう勉強会等の機会を設けている。職員は、身体拘束の具体的な行為とその弊害について正しく理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成し勉強会に取り入れ職員同士で話し合い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度を利用している利用者はいないが職員の勉強会に制度についての理解をするよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する際は本人・家族に十分な説明を行い理解同意をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホーム入口に意見箱を設置し利用者からの意見・苦情があった場合管理者職員は傾聴し解決するよう努めている。	職員は、日頃の利用者等との関わりの中で、一人ひとりに寄り添って接することで意向や希望を把握するようにしている。家族の来訪時には、利用者の生活の様子を伝え、また意見等を聞くようにしている。出された意向等は職員間で話し合い、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングを開き3グループホーム合同の責任者会議の内容を職員と共有して意見交換をしている。	日頃から管理者は、申し送り時やミーティングの機会を設け、職員のケアに対する思いや意見、提案を聞くようにしている。また、個別面談の機会も設けている。管理者は、職員から出された提案を法人内の責任者会議の際に報告し、協議を行って運営面に反映している。職員から代表者に意見や提案を伝える機会も設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の意見や不満を聞きいれてくれる。常に代表者と職員が話し合いが出来る環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	能力に応じて研修を受け法人内の勉強会、外部の研修も積極的に受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修生の受け入れ施設として他の施設の方々と交流を深めたり研修会等の活動を通じて情報交換しサービス質向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者から相談があった場合はゆっくりと耳を傾け話をしうけとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること不安なことは親身に聞き入れその都度説明、話し合いをし、いつでも受け入れる努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望をもとにその時点で何が必要かを見極め事業所として出来る限りの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者から昔の話をしていただいたり、レクリエーションの際には楽しく笑いあえる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事がある時は、出来る限り家族にも参加して頂いて喜んでもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元出身の利用者に関しては近所に散歩に行った際声をかけてもらっており関係が途切れないように努めている。	事業所では、利用者一人ひとりの馴染みの人や場所等へ出かけた際の写真を整理し、アルバムを作っている。出かける回数が少ない方には、アルバムを活用するなどして会話を交わすようにしている。また、利用者の友人や知人の来訪を快く受け入れている。利用者と職員で、馴染みの商店へ買い物に出かけたり、併設の事業所を利用している友人や知人との交流を楽しんだりできるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	だんらんの場でその人それぞれの役割居場所づくりを心がけ利用者同士が支えあえる環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもその後利用者からの紹介などの問い合わせをいただいたりして断ち切らない関係を大切にしている。			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	衣類など好みの物が欲しいと希望がある場合は、近所のスーパーに買い物をして行き、選んでもらって喜んでもらっている。	職員は、利用者の希望や意向を、言動やしぐさなどから把握するよう努めている。意思の表出が困難な場合には、家族からこれまでの生活歴を聞き、好みや生活習慣等を把握するよう努めている。職員間で意見を出し合い、本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴を大切にしコーヒー好きで外出されたい方には喫茶店でお茶を楽しんだりしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の心身状態や生活リズムに合わせた支援をしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケアカンファレンスを開催し意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。家族から意見要望を聞き取り介護計画書に反映している。	利用者や家族の意向を尊重したうえで、関係者の意見や気づきをもとに、本人のより良い暮らしの実現に向けた具体的な支援方法を記した介護計画書を作成している。利用者の心身の状況や意向の変化に応じて、介護計画を見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践等を個別記録申し送りノートに分りやすく記入し介護計画の見直しに役立っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイケアと併設しているためマッサージ器カラオケ誕生日会等その時々に応じて柔軟な支援をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議においては民生委員、包括センターの方に来て頂き利用者と世間話などをして認知症についての理解、協力を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が通院付き添いが難しい場合は職員が病院受診に同行し結果を家族に報告し家族本人の希望を支援している。	事業所では、入居時の段階で利用者や家族の希望する医療機関を確認している。現在、利用者全員が同一法人の運営する併設の医療機関を主治医としている。定期的に主治医による往診があり健康管理を行っている。専門医を受診する場合は、家族の協力を得たうえでの受診を支援しているが、困難な場合には職員が同行することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝常勤看護師長に状態報告をしており処置、点滴などの支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は様子を見に行き主治医と情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化がある度に医師、看護師、職員全員で話し合い状態を家族に報告している。後の状態変化に備え検討や支援に取り組んでいる。	契約時の段階で、重度化や終末期の対応について、本人や家族に方針を伝えている。医療関係者と密に連携を図り、看取りの体制を整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て救急講習を毎年実施している。緊急マニュアルを作成し周知徹底を図っている。24時間院長、看護師と連絡が取れる状態になっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し避難場所の地図を廊下に掲載し常に目につくようにしている。	年2回、消防署の協力を得て、日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。全職員が、防災救急マニュアルに基づき安全に避難・誘導ができるよう取り組んでいる。また、地域の代表者等にも協力を依頼している。災害時の物品や食料なども備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人個人の自尊心を尊重するような声掛けを行っている。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重した声かけや支援に努めている。利用者の尊厳の確保に留意し、職員相互に確認し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者にあわせて声掛けをし押しつけるようなことはせず一人一人の利用者が自分で決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに添って見守りながら生活を送り体調に配慮しながら本人の気持ちを尊重し柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各個人で化粧やおしゃれを楽しんでもらっている。職員が希望のカットをしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事の準備をすることが難しくその他のおしぼり巻きお膳拭き等をして頂いている。	事業所では、同一法人の運営する他サービス事業所で調理したものを運び込んでいる。利用者には、おしぼりを巻いたり、お膳を拭いたり、本人の力量に応じた役割を担ってもらっている。利用者と職員でテーブルを囲み、同じ食事を楽しんでいる。また、一緒におやつ作りを楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量の記録を行い職員全員が把握できるようにしている。食事量が少ない方には院長の指示により栄養補助食品を摂ってもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛け、介助を行い実施している。就寝前には義歯の洗浄、消毒を行っている。希望者には訪問歯科を利用してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る方にはトイレ誘導をトイレでの排泄をしてもらっている。個人の排泄パターンを把握してトイレ誘導している。	職員は、利用者の心身の状況に応じた排泄支援に努めている。トイレの利用が困難な方にも、声かけを行うなどして自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動、朝食後のヨーグルト摂取等で自然排便を取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが希望日があればいつでも入浴できるように支援している。	事業所では、利用者の心身状態に応じて、一般浴のほか、清拭や足浴も取り入れた入浴支援を行っている。入浴を拒む利用者には、声かけのタイミングを工夫するなどして支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り日中に活動してもらい1日の生活リズムを整えゆっくり休息、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をケース毎に整理し職員が内容を把握できるようにしている。服薬時に本人に手渡し服薬確認および服薬介助をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方にあつた役割や楽しみを見つけ支援している。手作りおやつは皆さん楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換に散歩に出かけたり季節によって花見など楽しんで頂いている。	事業所では、季候の良い日には近隣へ散歩や買い物に行ったり、外食や季節の花見に出かけたりしている。家族の協力を得るなどして、外食や一時帰宅ができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からの預かり金を事務所で管理しており希望あれば買い物等職員と一緒にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば携帯電話の所持も自由になっている。持たれて無い方に関しては事業所の電話を使用して頂き連絡できる環境になっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節により飾り付けをかえたりして季節を感じてもらうように努めている。レクリエーションの時間にはリラックスできるような音楽をかけゆっくりと楽しんでもらっている。	事業所には畳の間があるなど、家庭的な雰囲気でも過ごしやすい空間となっている。廊下の壁面には、利用者と職員で作成した季節の作品や写真を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室がありテレビを一緒に見ておられる時もあり個室の居室に戻られ一人でいられる居場所の確保に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れたタンスや椅子などを持ち込んで頂いて馴染んだ環境に近付けるよう工夫している。	事業所では、利用者の馴染みの品物や懐かしい人の写真等を居室に持ち込んでもらっている。本人や家族、職員間で話し合っ、一人ひとりが安心して暮らすことができるよう居室の環境づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下、風呂場に手すりを取り付け安全確保と自立への配慮を支援している。		